

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2277101446		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム北寺島の家 (3ユニット合同)		
所在地	浜松市中区北寺島町206-27		
自己評価作成日	平成26年11月5日	評価結果市町村受理日	平成27年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2277101446-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2277101446-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年12月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者の方の残存能力を引き出し出来る事は極力ご自身でやっていただくように励まし、支援しています

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

市街中心地に位置しながらも、緑の眺めのよい場所に事業所はあります。比較的交通量も少なく、スーパーマーケットや公園が点在し、恰好の散歩コースが数多あるなか、「次は喫茶店に寄ろうか」との職員提案も進み、また『喫茶を模して事業所内に家族をはじめ地域の人を招く』という案も検討されています。このようにイベントや行事に意欲的で、浜松まつりの屋台見学、夏祭り、小国神社の参拝と四季折々の催しが多彩です。日々の暮らしでは「できることはやってもらおう」との考えの下、掃除や食器洗いをはじめ生活リハビリが充実していて、個々のペースに合わせて職員が関わりを工夫する取組みが浸透していることを視認しました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念</b> I:2277101446					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人が地域の中で自分らしく生きていけるように支援します」という理念を共有し実践している	希望から書き方練習をおこなうなど、集団で暮らしていても「その人らしい時間」が流れるよう、心を砕いています。また、そのためにも残存機能の維持及び向上は大切なものと捉え、生活リハビリに取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、地区の行事には参加している、小中学生の福祉体験の受け入れを行っている	小中学校の福祉体験、歌や踊りのボランティアの受入れにより、利用者は闊達な振舞いや声の刺激を受けています。近隣に住んでいた人が多いためか、民生委員をはじめ訪れる人との会話も弾みます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところ活かしているとはいえない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催している、ホームの状況説明、市担当者からのアドバイス、自治会長より地域の連絡など意見交換している	行政、自治会長、民生委員の参加を得て、隔月開催できていますが、家族の出席がほとんどないことが課題です。近隣の事業所を誘うことも視野にいれ、またテーマも増やし、多様な人の集う場にしたいと考えています。	現在、平日の昼間に開催していますが、6回のうち1回でも家族が出席しやすい曜日や時間帯での開催が実現することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政窓口には議事録や報告書等持参し行き来している、又、介護相談員の受け入れもしている	運営推進会議の議事録を届けることを旨としていて、通常2ヶ月に1回は窓口へ出向いています。過去には入所の相談があったこともあり、連携がとれていることが窺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束ゼロの研修をしており拘束をしないケアをしている	必要に応じて施錠をおこなうこともありますが、職員は法人本部の研修会にも参加して、「なぜするのか」「必要なのか」を理解し、知識とともに意識も共有しています。また、スピーチロックについては相互に注意し合えるフォローワーシップが根付いています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待についての研修を受けており、細心の注意を払い日々防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在一名の方が活用している、入居相談時必要性がありそうな方には提案している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時説明し理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来設時には近況を報告し意見を求めている、又不満等の意見がでた場合は早急に検討し改善していく	小国神社の参拝は利用者の要望が叶ったもので、満足げな様子を糧に今後も意見を取入れていきたいとしています。家族からは苦言もないため、気軽に言ってもらえる関係づくりを今後の題目としています。	家族アンケートではなんでもないようなことについて要望があがっていたため、日頃から「聴ける。」よう、面会の機会に時間をつくられることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の定例会を行い職員の意見交換をし改善できるところは見直すなど行っている	定期的な個人面談はおこなわれていませんが、月1度の定例会と毎日のカンファレンスでは活発な進言が職員から挙がっていて、喫茶企画をはじめユニークな提案もみられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が働きやすくやりがいのある環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議、あA過程B過程、AA過程の研修は義務付けである また外部の研修への参加も促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の講演会等への参加をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族から要望を伺っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時、入居時に家族から困っていること、今後の要望を伺うようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の要望、家族の要望、状況を聴き本人の心身の状態を考慮し対応していく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は時には、娘となり孫となり疑似家族的な役割をし施設ではなく家として安心して生活できるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とともに支援していく関係作りに努めている、本人の要望があった時には家族に連絡し意見を聞く		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族より伺い支援に努めている	特別な石鹸を欲する人や親戚が婦人雑誌を持ち込んでくれる人もいて、在宅の頃と変わりがないう家族と職員とで支援することが慣行されています。以前の勤務先や近所の人が来訪することもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立したり、居室に閉じこもりがちにならないように声掛けをし、時には会話の中をとりもつようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設移られた場合でも面会に伺ったり、相談があった場合には応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリング、アセスメントなどから意向の把握に努めている、又日々の会話の中から聞き出すようにしている	外出や飲食に意向が実現しています。利用者の声音や表情に注視して傾聴を心がけ、意志疎通ができていない利用者にはしつこくならないよう気遣いつつ、繰り返し声がけをおこなうことで、想いの表出につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族から情報を集めフェイスシートを作成しアセスメントを行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、経過観察の記録をもとにカンファレンスで報告しあい把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを通して意見交換をし見直ししている又、必要に応じサービス担当者会議を開き計画の見直しをしている	経過記録を細かく作成することが日々続けられ、カンファレンス及び介護計画への反映が確実になっています。3ヶ月に1回のモニタリング並びにサービス担当者会議もおこない、法令遵守に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、介護記録、経過観察記録に記録し共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望にはその都度応じることができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会に参加している、敬老会、祭典への参加を楽しみにしておられる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の定期受診をしている、体調に変化が見られた場合早めの受診を心掛けている	歩行困難な利用者には往診があり、また24時間対応で問い合わせにも回答くださる協力医ため大変助かっています。また、緊急時には訪問も厭わない歯科医もいて、真摯な医療関係者に囲まれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回1ユニット1時間の訪問看護師に状態を報告相談し指示やアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には既往歴、ADL、服薬について情報を送っている 面会にも伺うようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に当施設でできることを説明し、主治医に相談、指示を仰ぎ方針を決めている	『機械浴の設備がなく、入浴介助が困難となることから重度化した場合は継続が難しい』といった具体的な例を説明して、契約時に家族の理解を得ています。2ヶ所の医院が応援を快諾くださっていて職員が安心して取組める環境にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルがある、職員会議で夫々の急変に備えて話し合いをしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回入居者も参加しての防災訓練を行っている	年2回の訓練のうち1回は夜間でおこない、銘々が防災頭巾を備えた利用者も加わって実践しながらです。非常食は水をはじめ3日分の用意があり、また発災時の避難場所にも指定されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入室する前にはノックをするなど、入室する理由を告げたり、丁寧な言葉かけをするようにしている	居室前に表札を掲げ、入室時にはノックをおこない、それぞれの家として関わります。名字ではなく下の名前で呼んでいます。職員間で呼び方を吟味し、また生活歴を鑑みて、言葉遣いも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを常日頃から言えるように会話には傾聴するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こちらサイドの都合を優先することのないよう本人のペースをもとに過ごすようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、出張理美容に来設してもらい希望者はカット、毛染め、パーマをかけてもらっている。化粧品等は職員と一緒に買い物に出かける		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べてみたいメニューを選んでもらったり、手作りのおやつを提供することもある。食器拭き、テーブル拭き、もやしのひげ取り等手伝いの出来る方にはしていただいている	お茶碗は自分のものですが、ほかの食器はなるべく軽いものを事業所で選んでいます。平日は業者から給食が運ばれていますが、日曜日はリクエストを募り、職員が腕を振っています。おやつは大半が手造りです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量を毎食ごとにチェックしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声かけをし促し、出来ない方には介助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し夫々のパターンの把握に努める、時間を見計らい誘導、声掛けをしている	排便前には落ち着かなくなる人には職員が寄り添う時間を設けトイレに誘っていて、個々の特性を掴んだケアがあります。リハビリからパッドになった例もありますが、現在は全員維持という状況です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力自然排便があるように水分補給はもちろん、散歩、ラジオ体操等で身体を動かすようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて入浴してもらっている 気の合う方同士や季節的な物を取り入れ楽しんでいただいている	昔懐かしいタイル張りの浴室は大変広く、仲の良い利用者は旅館気分で二人で入っています。季節を取入れた柚子湯も時にはおこないますが、常には茶がらを定番とし「ならではの、入浴があります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は離床を促し活動できる場面を作っているが、本人の体調に合わせて休息の時間も配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方してもらった薬の効能書は個々のカルテに保管、確認をしセット箱に保管している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を決めお手伝いをしていただいている、嗜好品の提供もしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は外気浴、散歩をおこなっている、行きたいという所には外出できるように支援している 買い物にも同行している	馬込川堤の桜並木の鑑賞は散歩の十八番となり、近くの公園は休憩処として活用されています。利用者希望で出かけた小国神社は、「次回はお蕎麦やさんにも寄ろうね」と、早くも第二弾への期待が膨らんでいます。	外出支援メニューは豊富にあります。が、身体状態に因ることもままあると思われるため、1日1回は日光浴といった細目な取組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されている方は少ないが、なくさないように声をかけ、買い物の際支払いをしてもらうなどしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には電話の取次ぎ等支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには絵、貼り絵、写真等掲載している、空調温度には配慮している	利用者同士の関係に基づき、席替えにも気遣いがあります。清潔で落ち着いた雰囲気にも包まれ、居間では雑巾縫いやごみ箱づくりに励む利用者を見かけました。また、利用者と職員とで協働でおこなったクリスマスの飾りつけも時節の空気を盛り上げています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル席には気の合う方同士が近くになれるように配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が長年使用していた物や愛着のある物を持ち込んでいただくようにしている	麦酒を好む人の部屋には冷蔵庫があり、これまではどの居室にも同様に趣味嗜好が感じられるものが置かれていたとありますが、認知症の進行に伴い減っていて、簡素な印象の空間もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名前を、トイレには目印をつけ、廊下、トイレには手摺をとりつけている		